



2024年9月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2024年8月14日

上場会社名 BBDイニシアティブ株式会社 上場取引所 東
コード番号 5259 URL <https://bbdi.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長 グループCEO（氏名） 稲葉雄一
問合せ先責任者（役職名） 取締役 グループCFO（氏名） 佐藤幸恵（TEL）03-5405-8120
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家、アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年9月期第3四半期の連結業績（2023年10月1日～2024年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第3四半期	3,016	13.8	216	85.9	202	90.1	116	40.4	116	40.4	116	36.1
2023年9月期第3四半期	2,651	—	116	—	106	—	82	—	82	—	85	—

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第3四半期	22.05	—
2023年9月期第3四半期	15.93	15.86

（注）2024年9月期第3四半期の希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式は存在するものの希薄化効果を有しないため、記載していません。

（2）連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
2024年9月期第3四半期	百万円 4,071	百万円 1,226	百万円 1,226	% 30.1
2023年9月期	3,746	1,091	1,091	29.1

（注）2023年9月期については、IAS12号「法人所得税」適及適用後の数値を記載しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年9月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2024年9月期	—	0.00	—	—	—
2024年9月期（予想）	—	—	—	10.96	10.96

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年9月期の連結業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上収益		営業利益		親会社の所有者に帰属 する当期利益		基本的1株当たり当期 利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,000	12.0	401	—	285	853.1	54.79

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名)一、除外 一社(社名)一

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年9月期3Q	5,276,221株	2023年9月期	5,276,221株
2024年9月期3Q	233株	2023年9月期	200株
2024年9月期3Q	5,276,006株	2023年9月期3Q	5,199,060株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

決算補足説明資料はTDnet及び当社ウェブサイトにて同日開示しています。また、2024年8月15日(木)に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日資料する決算説明会資料は、当社ウェブサイトに掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	7
(要約四半期連結損益計算書)	7
(要約四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2023年10月1日～2024年6月30日)における我が国経済は、不安定な世界情勢の長期化による物価上昇、資源・エネルギー価格の高騰、先進諸国の金融緩和縮小などによる経済活動への影響が懸念され、依然として経済活動の先行きは不透明な状況となっております。

当社グループを取り巻く環境は、中堅・中小企業におけるテレワークが定着し、デジタルトランスフォーメーション(DX)への機運の高まりによる営業DX化が広がってまいりました。また、生産労働人口の減少に伴うIT人材の採用課題やIT人材不足への懸念が増している状況において、当社グループの提供サービスへの需要は、より一層高まっているものと認識しております。

このような状況下において、当社は「ありがとうをX-Tech(クロステック)する」を経営理念に、「Digital Inclusion(デジタルインクルージョン)～テクノロジーを通じて、世界中の人々が参加し、平等に利益を受ける機会を提供することで社会に希望を与える～」をビジョンに掲げ、DXによる企業活動支援を積極的に推進するため、中堅・中小企業のDXを支援する4つのクロステック「セールステック」、「マーテック」、「ディープテック」、「タレントテック」へ経営資源を絞り、事業ポートフォリオの再構築のため積極的なM&A及び新規事業の立上げを進めてまいりました。加えて、グループ組織再編の一環として、成長性又は収益性が低い不採算事業・サービスからの撤退等、事業の選択と集中に取り組んでまいりました。

具体的には、企業の売上・生産性向上への貢献を可能にする統合型SFA/CRMクラウドサービス「Knowledge Suite(ナレッジスイート)」を中心とした中堅・中小企業向けSaaSシェア拡大、サブスクリプションビジネス拡大のため、営業体制強化へ向けてインサイドセールス部門を立ち上げました。また新たに2023年10月6日付で、手紙を活用したBDRで企業のインサイドセールスを支援するセールステックカンパニー株式会社Bizion、2023年12月1日付で、良質な商談を独自の仕組・ノウハウで企業のインサイドセールスを支援するセールステックカンパニー株式会社RocketStarterの全株式を取得し、当社グループの連結子会社とすることで、事業ポートフォリオを強化し、マーテック事業における65万社の独自企業データベースを活用した『Papattoクラウド』との事業シナジーを図ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上収益は3,016,633千円(前年同期比13.8%増)、営業利益は216,045千円(前年同期比85.9%増)、税引前四半期利益は202,422千円(前年同期比90.1%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益116,318千円(前年同期比40.4%増)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① DX事業

当第3四半期連結累計期間においては、販売パートナーの新規開拓活動及び深耕活動による拡販支援、効率の高い展示会への積極的な参加等によるマーケティング・プロモーション活動を引き続き注力しつつ、新たに立ち上げたインサイドセールス体制の強化による、リード(見込み顧客)獲得の拡大を図るなど販売チャネル強化を進めてまいりました。

また、「Knowledge Suite」と高い相乗効果を発揮するBtoB営業リスト作成サービス「Papattoクラウド」等、グループ会社及び提携先パートナーによるRPAサービス等の同時提案やクロスセルといった取り組みを推進し、「ビジネスブースト」の利用企業の拡大が進み始めたことで、SaaS売上収益は前年同期比11.6%増、グループサブスクARR(※1)は1,607百万円となりました。

これらの結果、売上収益は1,571,847千円(前年同期21.9%増)、セグメント利益は458,004千円(前年同期比56.4%増)となりました。

※1 グループサブスクARR: 2022年12月末時点のOEMを除く当社及び当社グループが提供する全てのSaaSにおける各四半期末時点のMRRの12倍で算出。

ARRはAnnual Recurring Revenueの略。年次経常収益。

MRRはMonthly Recurring Revenue。月間経常収益。

② B P O 事 業

当第3四半期連結累計期間においては、引き続き高いIT人材需要を背景に積極的な営業活動を進めたものの、IT人材不足による新規開発プロジェクト案件における機会損失が発生し、SES売上収益は前年同期比11.8%増となりました。

これらの結果、売上収益は1,444,786千円(前年同期比6.1%増)、セグメント利益は182,844千円(前年同期比1.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は1,279,043千円となり、前連結会計年度末に比べ80,625千円増加しました。これは主に、営業債権及びその他の債権の増加65,147千円、その他の金融資産の増加20,012千円によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の非流動資産は2,792,311千円となり、前連結会計年度末に比べ243,733千円増加しました。これは主に、使用権資産の減少83,864千円、のれんの増加215,832千円、無形資産の増加118,985千円によるものであります。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末の資産合計は4,071,354千円となり、前連結会計年度末に比べ324,358千円増加しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は1,796,312千円となり、前連結会計年度末に比べ192,238千円増加しました。これは主に、営業債務及びその他の債務の増加25,061千円、有利子負債の増加127,076千円、未払法人所得税の増加47,707千円によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の非流動負債は1,048,623千円となり、前連結会計年度末に比べ2,989千円減少しました。これは主に、有利子負債の増加90,705千円、リース負債の減少93,817千円によるものであります。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末の負債合計は2,844,935千円となり、前連結会計年度末に比べ189,248千円増加しました。

(資本)

当第3四半期連結会計期間末の資本は1,226,418千円となり、前連結会計年度末に比べ135,109千円増加しました。これは主に、四半期利益の計上による増加116,318千円によるものであります。

これらの結果、親会社所有者帰属持分比率は前連結会計年度末に比べ0.9ポイント増加し、30.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は2023年4月3日付で株式移転の方式により設立され、持株会社体制へ移行したことにより、グループ組織再編の一環として、事業の選択と集中を推進してまいりました。新たに掲げたグループ企業理念「ありがとうをX-Tech(クロステック)する」に基づき、「Digital Inclusion(デジタルインクルージョン)」の実現へ向けたDXによる企業活動支援を積極的に推進するため、中堅・中小企業のDXを支援する4つのクロステック「セールステック」、「マーテック」、「ディーブテック」、「タレントテック」へ経営資源を絞り、新たな体制をスタートしました。

2024年9月期の業績予想は、ホールディングス化から実質1期目に入り新たな成長戦略とともに、営業利益率10%達成の実現を目指します。4つのクロステック「セールステック」、「マーテック」、「ディーブテック」、「タレントテック」へ経営資源を絞り、成長ドライバーをより一層加速させ、人的資本を有効活用するべく、人材の最適配置、テレワークへの移行、評価制度の見直しを実行してまいります。また、既存事業の収益改善を図るため、前期におけるソフトウェア等の固定資産の減損整理から得られる減価償却費の削減、新規事業への人員再配置をによるコスト抑制を推進してまいります。

以上から、連結売上収益は4,000百万円(前年同期増減額429百万円増)、営業利益401百万円(前年同期増減額

378百万円増）、親会社の所有者に帰属する当期利益285百万円（前年同期増減額254百万円増）として据え置いております。

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。そのため、地政学的リスクに起因するグローバルサプライチェーンの影響等による経済環境をはじめとするさまざまな要因変化により、業績予想の修正の必要性が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	668,302	666,889
営業債権及びその他の債権	462,880	528,028
棚卸資産	1,273	1,868
その他の金融資産	3,255	23,268
その他の流動資産	62,705	58,988
流動資産合計	1,198,418	1,279,043
非流動資産		
有形固定資産	52,788	48,042
使用権資産	435,890	352,025
のれん	628,060	843,893
無形資産	1,176,389	1,295,375
その他の金融資産	102,648	100,174
繰延税金資産	152,799	152,799
非流動資産合計	2,548,577	2,792,311
資産合計	3,746,996	4,071,354

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	183,760	208,821
契約負債	84,742	91,667
有利子負債	979,402	1,106,478
リース負債	124,600	134,919
未払法人所得税等	28,155	75,863
その他の流動負債	203,413	178,562
流動負債合計	1,604,073	1,796,312
非流動負債		
有利子負債	705,412	796,118
リース負債	288,938	195,120
引当金	39,442	39,564
繰延税金負債	17,819	17,819
非流動負債合計	1,051,613	1,048,623
負債合計	2,655,687	2,844,935
資本		
資本金	734,016	734,016
資本剰余金	263,661	280,280
利益剰余金	93,498	209,816
自己株式	—	△20
その他の資本の構成要素	132	2,326
親会社の所有者に帰属する持分合計	1,091,309	1,226,418
資本合計	1,091,309	1,226,418
負債及び資本合計	3,746,996	4,071,354

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

(要約四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
売上収益	2,651,625	3,016,633
売上原価	1,479,769	1,733,052
売上総利益	1,171,855	1,283,580
販売費及び一般管理費	1,057,963	1,060,128
その他の収益	5,070	1,887
その他の費用	2,730	9,294
営業利益	116,232	216,045
金融収益	3	33
金融費用	9,761	13,657
税引前四半期利益	106,474	202,422
法人所得税費用	23,654	86,104
四半期利益	82,819	116,318
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	82,819	116,318
四半期利益	82,819	116,318
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	15.93	22.05
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	15.86	—

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
四半期利益	82,819	116,318
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する資本性金融商品	2,665	—
その他の包括利益合計	2,665	—
四半期包括利益	85,484	116,318
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	85,484	116,318
四半期包括利益	85,484	116,318

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

(単位：千円)

	親会社の所有者に帰属する持分					合計	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素		
2022年10月1日残高	700,696	260,806	64,747	△192	△2,533	1,023,525	1,023,525
四半期利益	—	—	82,819	—	—	82,819	82,819
その他の包括利益	—	—	—	—	2,665	2,665	2,665
四半期包括利益合計	—	—	82,819	—	2,665	85,484	85,484
新株の発行	10,490	10,490	—	—	—	20,980	20,980
株式移転による増減	△10,490	10,490	—	—	—	—	—
自己株式の消却	—	△192	—	192	—	—	—
株式報酬取引	33,320	△23,471	—	—	—	9,848	9,848
所有者との取引額等合計	33,320	△2,684	—	192	—	30,828	30,828
2023年6月30日残高	734,016	258,122	147,567	—	132	1,139,838	1,139,838

当第3四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)

(単位：千円)

	親会社の所有者に帰属する持分					合計	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素		
2023年10月1日残高	734,016	263,661	93,498	—	132	1,091,309	1,091,309
四半期利益	—	—	116,318	—	—	116,318	116,318
その他の包括利益	—	—	—	—	—	—	—
四半期包括利益合計	—	—	116,318	—	—	116,318	116,318
自己株式の取得	—	—	—	△20	—	△20	△20
新株予約権の発行	—	—	—	—	2,194	2,194	2,194
株式報酬取引	—	16,618	—	—	—	16,618	16,618
所有者との取引額等合計	—	16,618	—	△20	2,194	18,791	18,791
2024年6月30日残高	734,016	280,280	209,816	△20	2,326	1,226,418	1,226,418

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	106,474	202,422
減損損失	218	—
減価償却費及び償却費	234,442	220,112
金融収益	△3	△33
金融費用	9,761	13,657
棚卸資産の増減額 (△は増加)	1,402	△594
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△50,312	△48,752
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	9,621	12,975
契約負債の増減額 (△は減少)	59,923	6,924
その他	27,467	△8,343
小計	398,994	398,368
利息の受取額	3	33
利息の支払額	△9,947	△13,254
法人所得税の支払額	△32,288	△43,129
法人所得税の還付額	5,074	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	361,836	342,017
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,704	—
無形資産の取得による支出	△273,865	△228,283
子会社の取得による支出	—	△209,078
その他	△13,019	△22,470
投資活動によるキャッシュ・フロー	△288,589	△459,832
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	32,506	42,506
長期借入れによる収入	—	440,000
社債の償還及び長期借入金の返済	△229,518	△265,189
社債の発行による収入	98,090	—
リース負債の返済による支出	△99,421	△103,088
株式の発行による収入	20,980	—
自己株式の取得による支出	—	△20
その他	—	2,194
財務活動によるキャッシュ・フロー	△177,362	116,401
現金及び現金同等物の減少額	△104,115	△1,412
現金及び現金同等物の期首残高	722,959	668,302
現金及び現金同等物の四半期末残高	618,843	666,889

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当社グループが本要約四半期連結財務諸表において適用する会計方針は、以下の事項を除き、2023年9月30日に終了する連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同様であります。

当社グループでは、第1四半期連結会計期間よりIAS第12号「法人所得税」(2021年5月改訂)を適用しております。

IFRS		新設・改訂の概要
IAS第12号	法人所得税	単一の取引から生じた資産及び負債に係る繰延税金の会計処理を明確化

この基準の適用により、取引時に同額の将来加算一時差異と将来減算一時差異を生じさせる取引に関する当初認識時の会計処理が明確化され、当該将来加算一時差異と将来減算一時差異について繰延税金負債及び繰延税金資産が連結財政状態計算書にそれぞれ認識されることとなります。

同基準の適用により前連結会計年度の連結財務諸表を遡及修正しております。この結果、要約四半期連結財政状態計算書の前連結会計年度において、「繰延税金負債」が2,219千円増加、「利益剰余金」が2,219千円減少しております。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている事業セグメントを基礎に決定しております。

当社グループは、経営組織の形態、製品・サービスの特性及び販売市場の類似性に基づき、複数の事業セグメントを集約した上で、「DX事業」及び「BPO事業」の2つを報告セグメントとしております。

「DX事業」は、営業活動の可視化、営業活動の自動化を目指す法人向けマルチテナント型クラウドサービスとして開発した統合型営業・マーケティング支援SaaSの開発・販売及び顧客企業のカスタマーサクセスへ導く導入支援サービスを提供することで、中堅・中小企業のDXを支援する事業を展開しております。

「BPO事業」は、主に企業のマーケティング課題・システム課題を解決支援するWEBマーケティング支援、各種システムの受託開発・保守及び顧客企業へのシステムエンジニアリング(IT人材リソース)を提供するビジネスプロセスアウトソーシング事業を展開しております。

(2) 報告セグメントの収益及び業績に関する情報

報告セグメントの収益及び業績に関する情報は、次のとおりです。

前第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

(単位：千円)

	DX事業	BPO事業	合計	調整額	要約四半期 連結損益計算書 計上額
売上収益					
外部顧客からの売上収益	1,289,330	1,362,295	2,651,625	—	2,651,625
セグメント間の売上収益	7,853	39,292	47,146	△47,146	—
合計	1,297,184	1,401,587	2,698,771	△47,146	2,651,625
セグメント利益	292,921	184,838	477,759	△361,527	116,232
金融収益					3
金融費用					9,761
税引前四半期利益					106,474

(注) 1. セグメント間の取引は市場実勢価格に基づいております。

2. セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。
3. セグメント利益は、要約四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)

(単位：千円)

	D X 事 業	B P O 事 業	合 計	調 整 額	要 約 四 半 期 連 結 損 益 計 算 書 計 上 額
売上収益					
外部顧客からの売上収益	1,571,847	1,444,786	3,016,633	—	3,016,633
セグメント間の売上収益	1,170	24,884	26,054	△26,054	—
合計	1,573,017	1,469,671	3,042,688	△26,054	3,016,633
セグメント利益	458,004	182,844	640,849	△424,803	216,045
金融収益					33
金融費用					13,657
税引前四半期利益					202,422

- (注) 1. セグメント間の取引は市場実勢価格に基づいております。
2. セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。
 3. セグメント利益は、要約四半期連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。